
平成 27 年

9 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

中濃農林■ゆず 現地研修会で情報交換を実施

9月29日、かみのほゆず（株）主催でゆず現地研修会が開催された。研修会では優良ゆず園2ヵ所を視察し、栽培管理方法や生育状況について情報交換が行われた。

農業普及課からは、今年度取り組んでいる反射シートを利用した害虫対策やナギナタガヤによる除草作業の省力化の実証について情報提供を行った。参加者からは、反射シートの害虫に対する効果やナギナタガヤの特徴などについて熱心に質問が出された。

今年度は新産地づくり地域活性化推進事業を活用して「かみのほゆず出荷規格表」を作成、配布する計画となっている。出荷規格を周知することで今まで集荷率の低かった下位規格の集荷率を向上し、集荷量40t確保を目指す。



【ゆず園での現地研修会】

郡上農林■夏秋イチゴ 岐阜女子大とのコラボで加工品を作成中

ひるがの高原いちご組合（高鷲町）では、岐阜女子大学とタッグを組み加工品の作成に取り組んでいる。規格外品のイチゴなどの有効利用と地域の活性化を目的に連携を深め、食品加工が得意な家政学部健康栄養学科に依頼している。

9月17日に、大学側からイチゴの成分分析結果の報告と試作加工品（フローズンヨーグルト、いちごとミルクのゼリー）の紹介がなされ、今後の展開について組合側と検討した。

農林事務所では、農政部農村振興課と連携し、「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動」を見据えた支援を行っており、今後も引き続き支援していく。



【試作加工品を試食検討】

可茂農林■クリ 各地でクリ出荷始まる！～クリ選果選別研修会を開催～

管内のクリ主要産地である美濃加茂地域、可児市、八百津町では、8月24日頃からクリの出荷が始まっている。本年は、8月上旬までの高温干ばつの影響で早生栗はやや小玉傾向であったが、前進傾向で順調な出荷となっている。

出荷に先立って、可児市クリ振興会では8月27日～9月1日に地区別の出荷目揃会を開催し、県内の実需者と契約栽培に取り組む可児市特選栗部会は8月25日に出荷目揃会を開催した。

また、八百津町では9月2日に選果選別方法の研修会を開催し、家庭選果の徹底による高品質なクリ出荷に努めている。特に生産者個々が八百津町の地元菓子屋に直接出荷しているため、出荷品質のバラつきが課題となっていたが、農業普及課が中心となり作成した出荷基準に基づく高品質出荷の成果が現れつつある。今後、クリの出荷は10月上旬まで行われる予定で、県内の市場や地元菓子屋に出荷される。



【選果選別研修会】

下呂農林■スイートコーン 6次産業化に向けて

9月9日、下呂市スイートコーン研究会は県の6次産業化実践アドバイザー派遣制度を活用し、加工に関する専門家を招聘して新商品開発について検討を行った。



【検討の様子】

特に、同研究会が生産するスイートコーンのレトルトパック加工に必要な設備や販売戦略について助言を頂いた。

今後、全研究会員を対象としたアドバイザーによる講演会を開催して6次産業化への関心を高めつつ商品化を目指す。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■えだまめ 第4回産地戦略会議を開催

9月3日、JAぎふ本店、西郷支店、岐阜市の担当者等と産地戦略会議を開催し、岐阜市西郷地区におけるえだまめなどの作付け状況を色塗りした地図を基に、えだまめの農地集積の進め方や推進上の課題などについて検討を行った。

西郷地区では、今後耕作できない人の農地が増加することが予想され、「えだまめ部会という受け皿があるとありがたい」、「農地集積については、まずは地区農政推進会議で方針を決め進めたい」、「借り手のルールづくりが必要である」などの意見が出され、関係機関が協力して、えだまめの農地集積を進め、面積拡大を目指していくことを確認した。

今後、農業普及課では、西郷地区全体を捉えた農地利用方針について関係機関と調整を図るとともに、えだまめ部会やJAぎふなど関係機関と連携し、規模拡大意向のある生産者の把握や借り手側のルールづくりを行い、貸し手側とのマッチングや地区農政推進委員への説明などの取り組みを行う予定である。



【産地戦略会議の様子】

揖斐農林■茶 第68回 関西茶業品評会 出品茶入札販売会

9月16日に揖斐川町で出品茶入札販売会が行われた。先に行われた審査会「普通煎茶の部」で最高位1等1席 農林水産大臣賞を受賞した揖斐川町 桂茶生産組合 太田恒雄氏の出品茶が1キロ当たり25万円で落札されるなど、盛況な販売会となった。入札販売会全体としては、参加業者数99社、販売点数538点、販売数量2,188kg、販売金額は37,874千円であった。

関西茶業振興大会も品評会、入札販売会と成功を治め、11月15日に揖斐川町地域交流センターで行われる大会式典を残すのみとなった。「美濃いび茶」を県内外に発信する絶好の機会であり、農業普及課は今後も消費拡大イベント、式典等大会全体の成功に向けて支援を行い、「美濃いび茶」生産振興とさらなるブランド化に繋げていく。



【活気あふれる入札販売会の様子】

農業経営課■飛騨牛 中濃地域種牛共進会並びに研修会を開催

中濃地域畜産振興会（会長：尾関健治）とJAめぐみの管内肉用牛部会（会長：神谷保夫）は、9月18日に関市西田原の全農岐阜関家畜流通センターにおいて中濃地域種牛共進会及び研修会を開催した。

共進会には中濃管内から35頭の雌牛が出場し、体形や資質の審査が行われた。

また、午後の研修会には和牛繁殖農家、加茂農林高校生産科学科学生等約90名が出席し、中濃家畜保健衛生所から子牛の衛生管理、農業経営課農業革新支援専門員から子牛のワクチンプログラムと下痢予防に関する講義の後、飛騨肉牛生産協議会青年部長により繁殖雌牛と子牛の削蹄実演が行われた。本共進会の入賞牛は10月31日に高山市で開催される岐阜県畜産共進会種牛の部に出場する予定となっている。



【削蹄実演状況】

多様な担い手育成・確保

西濃農林 ■ 集落営農組織 関ヶ原町松尾地区で集落検討会を開催

9月3日、集落営農重点指導地区である松尾地区で、岐阜県集落営農アドバイザー楠本雅弘氏を招へいし、地区住民21名の参集を得て集落検討会が行われた。

第1回目の今回は、先だって行った「集落の未来に係るアンケート」結果を踏まえ、集落営農の今後の方向性について話し合った。楠本先生からは「集落営農組織を法人化するメリット」に重点を置いた講義が行われた。

講義終了後に意見交換が行われたが、早々に法人化すべしとの講義内容に対し、法人化を急がず、よく話し合っただと進めるべきだという慎重な意見も出た。既存営農組合の組合長も、なるべく多くの人に了解を得てから法人化したいとの意向があるため、集落の中で今後も議論を重ねていくことを確認した。



【集落検討会の様子】

恵那農林 ■ 夏秋トマト新規就農者 「夏秋トマト夜間ゼミ」受講生に巡回指導

農業普及課では、夏秋トマト就農3年以下の新規就農者とあすなる農業塾生を対象として、本年度からトマトの生理生態をはじめ栽培管理技術等を講習する「夏秋トマト夜間ゼミ」を開講している。

9月14・15日には受講生14名の栽培ハウスを巡回し、本年度栽培経過等の聞き取りを行い、栽培状況の把握及び栽培管理上の課題、次年度に向けた新たな取り組み等について整理した。

農業普及課では、巡回指導結果を取りまとめ、ゼミの締めくくりとなる総合討論に役立てるとともに、夜間ゼミの今後の内容充実を図り、夏秋トマトの担い手育成を強力に推進する。



【巡回指導の様子】

東濃農林 ■ 土岐市曾木町 農地中間管理事業の活用による農地集積を目指す

土岐市曾木町では、集落営農組織設立に向けて昨年度より検討を重ねてきた。8月下旬には、曾木町内の各集落で集落説明会を開催し、農事組合法人の設立及び農地中間管理事業活用による農地集積等について説明し、地元住民の同意を得た。

農地中間管理事業については、本年度曾木地域は農地利用集積モデル地域に選定されており、関係機関によるチーム員会議を開催し、役割分担と連携を図っている。農業普及課では、集落営農組織の発起人及びオペレーター候補の農家と連携し、地権者の意向の聞き取りや制度説明等について支援している。その結果、機構を通じた新たな農地集積が5ha程度となる見込みが得られた。

法人設立に関しては、本年12月の設立を目指し、現在発起人により定款及び事業計画を作成している。予定どおり設立されれば、土岐市内では初めての農事組合法人の設立となり、他の地域への波及が期待できる。



【農地集積推進チーム員会議】

飛騨農林■鳥獣害対策 地域ぐるみで防護柵を設置 ～飛騨市宮川町種蔵～

飛騨市宮川町種蔵で9月4日、鳥獣害防護柵の設置作業が行われた。当日は小雨の中、地域住民及び関係機関職員数十人が出席し、種蔵棚田の周囲を囲むワイヤーメッシュ（2m四方）柵の設置に汗を流した。

種蔵は現在、秋そばが栽培されており、防護柵の設置により猪・鹿害の軽減が期待される。このような中、作業は、鳥獣被害対策緊急支援事業として実施されたもので、防護柵の設置に至るまでには、鳥獣被害対策専門員等が中心となって、地域での合意形成や設置設計などを指導した。

農業普及課は、自動撮影カメラの設置等により、鳥獣の出没状況や獣道の特特定並びに被害状況をモニタリングしてきたが、今後は防護柵の効果実証を含めて獣害防止対策を地域に啓発していく。



【地域住民の力を合わせて防護柵を設置】